

# ICT教育

近年、若い先生方を中心に学習指導案の中に「ICT活用」と書かれていて、教材提示装置や大画面モニタ等で情報を与えている。

昭和時代から教員をしてきた者からすると隔世の思いが生ずる。

完全な情報ではないが、記憶をたどると、昭和62年12月の教育課程審議会答申において1) 中・高等学校の数学、理科等において、コンピュータにかかわる内容を取り入れること、旨がうたわれた。財政的な措置もあり、理科室に5インチFDDつきのパソコンが導入された。理科では、グラフ作成、シミュレーション、データベースなどによく使わせていただいた。活用実績もあり、理科室のパソコンはその後も更新することができた。

(聞いた話では、数学の実績が財政を動かすことができず、事務室への配置転換になった地区があるとかないとか・・・。)

その後、技術家庭科の情報基礎履修に伴いパソコン教室の充実、学校間がインターネットで接続され、平成10年ぐらいに、コンピュータ教室、理科室を含めた各教室で情報収集ができるようになった。そして今、いちいち述べる必要もないだろう。

学校にコンピュータが導入された時代の教員世代は、コンピュータに何ができるか、させるか、活用するかが研究主題であった。幸か不幸か、今日は、導入していることが当たり前で、学習指導をじっくり学ぶ必要がある若者はそのまますた活することになる。管理職も学校設置者が導入したために、若者にとにかく使わせることになる。

ところが、授業を見てみると、コンピュータ等を、何でわざわざ今使う必要があるの？と思う授業が多々ある。彼ら曰く「本校の目標の一つにICT活用があると。」残念だが、かつて我々が言われていたことと同じことが今日も続いているような気がします。

さて、今のICT導入に関し、気をつけていきたいことがあります。

## ①財政的な裏付けがあるのか

一人一台タブレットは本当に可能か？ 受益者負担を求めるのか？  
公的資金出動の場合、メンテナンスや更新の費用を確保できるのか？

## ②本当に効果があるのか

情報教育の知見が若手に伝わっているのか？  
おもしろいと理解はちがう

## ③授業秩序の必要性

たぶん、今まで以上に授業の指導が高度で難しくなるだろう。

先日、NHKクローズアップ現代で、韓国の実践が紹介されていた。日本以上に早くから大量にタブレットを学校に導入してきたが、先生方の実感から、子どもたちは、単にタブレットを触っているだけで、何も考えずにわかっているという結論にたどり着いた。国も方針を転換したようだ。

とにかく、この手の教育行財政政策の裏には、市場開拓の経済原理がはたらいてきた。今もそうなのか、教育の専門家として鋭く見抜かないといけない。